

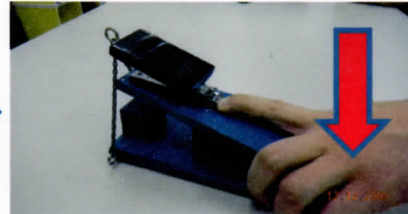
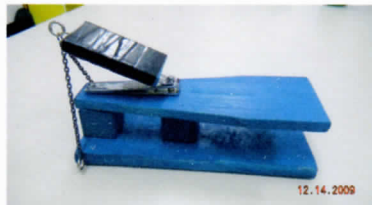


新春のお慶びを申し上げます。  
今回の訪問タイムズは、自助具の紹介とコラムです。

### 訪問記事 (自助具)

今回、訪問で製作した自助具を紹介したいと思います。

まず自助具とは、日常生活が困難な場合にそれを補うものを言います。今回の自助具は爪切りです。片麻痺の方が麻痺していない手の爪を切ることが難しい状況でした。そこで、自助具を製作しました。製作費用は300円程度です。



写真のように爪を当てて下に押すだけの力で切ることができます。

このように自助具を使うことでこれまで出来なかったことが出来ようになります。利用者様の困っていることを出来ることに変え自信へとつなげていければと思います。これからも利用者様の声を大切にしてその人らしい生活ができるよう支援していきたいと思っています。

作業療法士：三津山功祐

### コラム (第1回)

リハビリテーション(以下リハビリと略します)の理念は、「人間らしさの回復」です。私がこの言葉に出会ったのは、21歳の夏でした。この理念に震えるような感動を覚えました。

あれから31年の時が過ぎました。今回、訪問タイムズのコラムを執筆するに当たり、私のリハビリ人生の中で心に残ったことを書いていきます。

私は微力ではありましたが、出水市立病院(現在は出水総合医療センター)に21年間在職し地域の皆様方のリハビリサービス提供に努力してきました。リハビリ理念の「人間らしさの回復」を常に念頭に置いていました。

ある時、重度な四肢麻痺を呈された男性患者様を担当しました。最初は、「身体機能」面へのアプローチをしていて、それなりの信頼関係が持てたと思えました。人間は一言でいうと「心」と「身体」から成り立っています。そして活動するには、「環境」と「意欲」が必要です。

この方は、51歳で脳血管障害を発症されました。会社内でも高い地位で活躍されていました。社宅に住まわれ子どもさんたちは、高校生、中学生、小学生の3人でした。奥様は、家庭をしっかり守られておられたのですが、突然の悪夢に何から手をつけてよいのか茫然とされていました。

入院期間は約1年でしたが、重度な麻痺と難聴、構音障害が残り車いす生活となりました。この方は、復職を強く希望されていましたが、会社からは暗に退職を迫られているようでした。この方は、身体は思うように動かないけど「電話での営業や対応はできる」と話され、訓練に聴き取り訓練や会話訓練を実施したこともありました。

ある時、会社の重役の方がベッド際にきておられ、奥様と今後について話されていました。確か奥様は泣かれていたように思います。私もこの方、奥様から相談を受けました。退院しても社宅なので、車いす対応の家屋改造は困難であること、退職すると社宅を出なければならないこと、東京の自宅は人に貸していること、子どもたちのことを考えると出水で生活していきたいことなどです。

私にできることは、この方と奥様のお話を傾聴することでした。「人間らしさの回復」とは何と幅広く奥が深いものか、愕然としました。会社、病院との話し合いや障害年金などの諸手続きなど、奥様は孤軍奮闘されていました。

ご夫婦で泣き笑いしながらも一步一步確実に退院、在宅生活へ向けて歩かれ、出水市内に土地を購入され、自宅を車いす用に新築されました。

私も新築図面を見ながら建築現場で大工の棟梁とトイレやお風呂、玄関などの構造、手すりの位置確認などについて協議しました。

退院後は、新築の自宅で短歌を趣味とされ穏やかな日々を過ごされました。

この方の短歌は、奥様への感謝と愛情に満ちており、今でも私の心に残っています。「人間らしさの回復」について深く考えさせられた経験となりました。

「人間らしさの回復」には、「心=意欲」、「身体」、「環境」の3つの回復が必要だと思います。そして、この3つの回復には本気で係わる「人達(チーム)」と「時間」と継続可能な「地域支援システム」が不可欠だと思います。

所長：川本愛一郎

新年にあたり、心より皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。  
今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

リハシップ あい 訪問看護スタッフ一同

○訪問看護ステーション リハシップ あい  
TEL:0996-68-6811 FAX:0996-62-6800  
HPアドレス:<http://rehaship-ai.com>